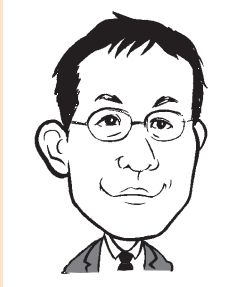


越谷市議会議員

平成 30 年 3 月発行 No.16



大野やすし市政報告

〒343-0806 越谷市宮本町 1 - 9 4 - 3

電話 /FAX 048-940-0115 携帯 080-3300-8100

アドレス y.ohno2335@themis.ocn.ne.jp



HPあります。検索エンジンで **y-ohno.jp** と入力してください。FB、ツイッターもよろしくお願いします。



越谷市3月定例会は、2/21～3/16まで開催され、私は代表質問に登壇しました。代表質問では、①越谷市の魅力発信と産業振興②東京圏にあるポテンシャルを活かす都市整備の展開③中心市街地活性化の取組と地域の魅力の向上④人生100年時代を支える地域包括ケアシステムの構築⑤生きる力を育む教育⑥人口減少社会に勝ち残る未来への戦略の6点から市長、教育長の見解を問いました。まとめると、越谷の魅力を発信するとともに産業振興を図り人口減少時代を勝ち抜いていきたいと思いますという私からのメッセージです。各質問項目の概要と私の見解は以下のとおりです。市民のみなさんが感じる、市政についてのご意見・ご要望、遠慮なく、私にお聞かせください。

1 越谷市の魅力発信と産業振興



◇本市は昭和33年11月3日に市制を施行し、本年11月3日に60周年を迎えます。東京のベッドタウンとして発展してきた当市は、現在も辛うじて人口増加が続いています。今後もこの状態を維持していくためには、まちの魅力を高め、地元産業振興をすることが重要です。そういった観点から、①市制60周年に関する事業展開②こしがや愛されグルメなど、越谷の魅力発信③今後の商業振興のあり方④都市型農業の推進について市長に問いました。

- ◇①については、11/3の市制60周年記念式典に加え、4/27大相撲越谷場所の開催、7/22「NHKのど自慢」、8/23「NHKラジオ体操」などの様々な事業が展開されます。
- ◇②については、「こしがや愛されグルメ発信事業」は2/19に「手みやげ品」30グルメ、「飲食店メニュー」20グルメを選定し、4/29にレイクタウンで認証式。今後、本市の食の景観づくりに取組みます。
- ◇また、2/28にNHK-BSで放送された「越谷サイコー」は4/14にNHK-BSで再放送されるということです。
- ◇③今年は1月に「越谷縁起コロッケ」、2/16～3/4に「越谷いちごフェア in せんげん台」が開催されました。今後も、商業者の皆さんからの提案を伺いながら、支援していきたいとのことでした。
- ◇④については「越谷いちご」など観光農業を進め、「ねぎ」「くわい」などの特産品も後継者育成も含め、しっかり取り組むとのことでした。

2 東京圏にあるポテンシャルを活かす魅力ある都市整備の展開



南越谷サンシティ



国道463号産業団地予定地



都市計画道路
「浦和野田線」予定地

◇越谷レイクタウンや西大袋の区画整理の収束がみえてきた今日、越谷の未来の活力を維持するためには、新たな都市基盤整備が極めて重要です。そのような観点から、①南越谷地区への業務機能を集積するための都市開発の推進②産業団地の造成③都市計画道路浦和野田線北越谷工区など、交通ネットワークの整備④公共下水道への平成32年度地方公営企業法適用に向けた取組について、市長に問いました。

◇①については、越谷市の中心核にふさわしい土地利用が図れるよう規制誘導を行う。②については平成29年5月から、荻島地区の国道463号バイパス沿道地域を対象として、県とともに、「地権者の合意形成」などを進めている。4月からは「荻島地区土地利用推進室」を設置し積極的に取組む。③の都市計画道路「浦和野田線」の未供用区間については県から都市計画を変更し元荒川左岸ルート案で取り組んでいく方針が示された。これからも丁寧に取り組んでいく。④については、下水道経営の透明性を高めるため、万全の準備を進めていく。

◇今後も、越谷の未来を創る都市整備の可能性を、様々な観点で検討・提案していきます。

3 中心市街地活性化の取組と地域の魅力の向上



はかり屋



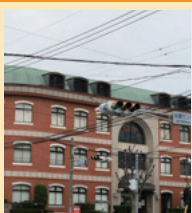
ガーヤちゃんの蔵屋敷



（仮称）大沢一丁目公園予定地



元荒川緑道予定地



保健センター



大沢第一体育館

◇中心市街地活性化については、蔵・古民家を活かした取組が地元事業者や民間との連携により進み、徐々に活性化の兆しがみえてきました。今後は、大沢地区も含め、歴史的資源の多い越谷駅と北越谷駅を挟む旧宿場町全体の回遊性を検討する必要があると考えます。

◇そのような観点から①空き店舗解消に向けた取組み②越谷駅と北越谷駅を結ぶ元荒川中流域の公園及び緑道の整備③大沢地区センター及び大沢体育館建替に伴う地域の活性化について市長に問いました。

◇①については、中心市街地を対象にした「空き店舗ゼロプロジェクト事業」に県とともに取り組んでいる。②については、県の「川の国はつらつプロジェクト」で（仮称）大沢一丁目河畔公園、御殿町公園、元荒川右岸沿いの緑道整備を進めている③については大沢地区センターは現保健センターを活用し、体育館は地域を活性化する魅力的な施設を整備する方向で検討を進めるとのことです。

4 人生100年時代を支える地域包括ケアシステム



地域包括ケアセンター出羽



老人福祉センターひのき荘

◇人生100年時代というのは「2007年に日本生まれた子どもは107歳まで生きる確率が50%もある」との説をもとに、人生80年モデルを根本的に見直そうという政府の取組に由来します。市政では地域包括ケアシステムの構築が最も重要と考え、①地域包括支援センターの地区センターへの整備②介護予防・日常生活支援総合事業の取組について市長に問いました。

◇①についてはこれまで大型地区センターを対象として7か所で完了し、市民の評判もよいとのこと。②については、今年1月より、市内4か所の老人福祉センターを活用した65歳からの元気アップ運動教室などに取り組んでいるとのことでした。

5 生きる力を育む教育

小中一貫教育7つの取組

- ①生活規律の共有化
- ②学習規律の共有化
- ③学習過程の工夫
- ④板書計画の習慣化
- ⑤ノート指導の統一化
- ⑥家庭学習の統一化
- ⑦学習形態の工夫



越谷市道徳教育郷土教材集



中央中学校 一期一会の碑

◇人口減少の中、成長していく子ども達が、生きる力を少しでも身に着けてほしいとの願いから、今回は①小中一貫教育の取組と今後の方向②「特別な教科 道徳」導入に向けた取組③小学校への英語教育導入の課題と取組について、教育長に問いました。

◇①については、学力の向上、中一ギャップの解消、自己肯定感を狙いとし、全小中学校で取り組んでおり、今年で3年目を迎え、教員の相互理解と協働の意識が浸透し、9年間を見通した取組が進められている。生活規律や学習規律の共有化、ノート指導の統一化など取組む方向の成果が得られ、これら「小中一貫教育7つの取組」に重点的に取り組んでいる。

◇②については、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から「特別な教科 道徳」として検定教科書を導入して「道徳科」を実施する方針。市教委では（1）「考え、議論する道徳」（2）指導計画の見直し（3）評価の研究・準備（4）郷土教材の作成の4点から取り組んでおり、「越谷市道徳教育郷土教材集」の作成などを進め、児童生徒の郷土愛の育成も行う。

◇③については最終的には小学校高学年で年間70単位時間、中学年で35単位時間も増加することから、小学校の全教員が自信をもって授業に取組めるよう、市内全ての小学校で「外国語活動出前研修会」を実施し、最新の外国語教育情報の提供、ALTと小学校教員とのチームティーチング、授業で活用できる学習活動の体験などを通して、学習活動をより充実させていくなどの取組を進めていくとのこと。

6 人口減少社会に勝ち残る未来への戦略



新本庁舎基本設計イメージ図



越谷甲冑 新たな取組



第34回越谷市郷土芸能祭



アルファーズ

◇平成28年3月に策定した越谷市人口ビジョンでは、本市は平成33年に人口34万150人でピークを迎え、その後、人口減少が続くと想定していますが、現実には昨年9月は想定より4年早く34万人を超え、現在も駅近の市街化区域を中心に微増が続いています。このことから、本市は今後も魅力あるまちづくりを続けられ、人口減少社会に勝ち残っていけることがわかります。

◇そこで、①人口ビジョンの想定以上に増加する人口②第5次越谷市総合振興計画策定に向けてという質問で、今回の代表質問を締めくくりました。

◇①については今後も定住人口の増加を図るため、今年策定した第4次総合振興計画 後期基本計画 第2期実施計画などにより、計画的に都市の魅力を高める施策を展開する。

◇②については、平成33年度からその後10年間の指針となる「第5次越谷市総合振興計画」策定に際して、若者世代を含めた幅広い年齢層の意見等を盛り込んでいけるよう、来年度から若手職員を含め、調査・研究を進めるとのことでした。



コクヨキャンパスノート



越谷縁起コロッケ



はかり屋

大野やすしの3つの主張

「マイ・ホームタウン越谷」の実現に向けて

- 誇りを持てるまち越谷を築く
- しぶとい日本人の再生を目指す
- 簡素で効率的な行政体制を創りあげる

経験から取組む5施策

- 1 子ども・教育施策の推進
- 2 まちづくり・経済産業施策の展開
- 3 危機管理施策の強化
- 4 観光を通じた伝統・文化の活性化
- 5 行財政改革の徹底

経歴

S38 宮本町生まれ、越ヶ谷小、中央中、越ヶ谷高、明治大学政経学部卒
S62～H23 東京都職員（建設、行革、防災等）、元越ヶ谷高校同窓会副会長
H23.4 越谷市議初当選
H27.4 越谷市議当選（2回目）
家族
父、母、妻、3男1女の8人家族